

これらの経営形態はそれぞれのおかれた自然条件（地形・土壌）、都市化の進展の程度、その他の経営条件との関係で市域内でも相異なつた分布と特色を示している。

花卉はかつての近郊農業の中心であつた砂丘地区の茅ヶ崎市街地近くに多く、ビニールハウスは東部の砂質土壌が中心である。この両施設園芸ではかなり特化した営農が展開されている。露地蔬菜は概して東部の砂質土壌のところ果菜、西部の粘質土壌に葉菜を配し、近郊農業の有利性を生かして栽培されている。畜産は北部の高座丘陵を中心に、濃厚飼料依存且つ搾乳・採卵を目的とする近郊型で、近年ますます多数頭羽化が進んでいる。

茅ヶ崎市の場合、これらの経営は概して個別的であり、技術・出荷の面でまとまりがないのが特色である。その結果、蔬菜の場合市場は一部を除いて地場市場である。そして歴史的にみてもこれらの農家は周辺の農家を向上させることはなしに、むしろその一部を脱落させつつ現在まで薦農家として歩みつけてきたし、今後もこの方向に変わりはないと思われる。もちろん労働力不足、後継者難、規模拡大のための用地と資金の問題、畜産公害など都市近郊で生き残るには前途に問題は多いが、これらを克服できる意欲と能力のある経営のみが茅ヶ崎では生き残るであろう。

## 群馬県藤岡市域の地理学的考察

——神流川、鮎川平野の地形を中心として——

古 屋 彰 子

藤岡市は群馬県の南部にあり、関東山地の北東部より流れ出る神流川および鮎川のつくる平地と、その背後の山地帯よりなっている。平地部分には、神流川が堆積してつくれた扇状地を開析した結果できた扇状地性の台地（藤岡台地）と沖積面、それに鮎川、鍋川、三名川の段丘などがあり、藤岡台地の傾斜方向は北東方向で、この地域の地盤の傾斜の方向および地質の方向と一致している。

地形面はいくつかに分かれるが、藤岡台地面以上の面には一般にロームがのっており、藤岡台地の地下数m（ロームの下に）には榛名火山に由来する混流が烏川をせきとめた結果できたと考えられる粘土層（藤岡粘土層）が存在し、市の主な工業である瓦工業の重要な原料となっている。内陸にあるために降水量が少なく、年較差が大きく、冬の北西季節風が強い。また、集落は地形と割合深い関連をもって立地しているが、北西季節風をよけるために、高い屋敷森が卓越している。

人口は約4.4万人で、開発は先史時代に始まり、古墳や条里遺構などもあるが、本格的に発展したのは近世になって絹市のための市場町としてである。農業の主軸は養蚕業と稲作であるが、都市圏の拡大などに伴って、ここ10年位の間はその経営はかなり変化してきている。それは主に水田

裏作（麦類）の転用によってなされ、ビニールハウスによる果菜類（特にトマト）、山地に近くの生しいたけ、いちご、梨などの作付がめだって増えている。また酪農、養鶏、養豚、肉牛の飼育など都市向けの農家経営に変化しつつあり、埼玉県から一まわり拡大された近郊農村の色彩を見せ始めている。

工業は、伝統的な瓦工業と、付近の養蚕を利用した絹工業の他に、農家の豊富な労働力利用のために最近盛んになった各種部品工業や、木材関係の工業などが主なものであるが、特に農家の主婦が農作業の合間に行なう家内工業的なものにも特徴がある。

結局この地域において問題になるのは、自然と関連した産業の方向と、高崎線の本線からはずれているという交通上の位置であると考えられる。密集した工業地域のいきづまりと労働力不足により、工場の地方分散の傾向がみられるが、藤岡市においては、原料立地である在来からの伝統的な工業とともに、近年誘致された地方工場が今後どのような発展をみせ、東京など他都市とどのような関連を持つようになるかが注目される。都市圏の拡大、道路の整備、トラック輸送の進展につれてこの地域の農業的価値も高まるであろうが、人々がこれらの産業に、この地域独自の自然的・人文的条件をどのように生かしていくかが課題となるであろう。

## 工業化による市原市の変容

——京葉臨海工業地帯造成との関連において——

細 井 京 子

京葉臨海工業地帯の造成による企業誘致は、昭和20年代農村の過剰労働力問題と財政的危機に悩まされた千葉県がその解決策として打ちだしたものであった。初期においては企業に有利な条件で誘致が行なわれたが、昭和30年代に入っている頃には現在に至るところの企業の設備投資競争が始まり、企業の側からの要請と地方自治体の財政的要求とが一致して臨海地域の埋立てによる土地造成と企業誘致が展開された。

この臨海工業地帯の土地造成は、東京湾の千葉県側一帯に戦後特に盛んに行なわれてきたノリと貝の養殖を中心とした漁業の消滅を前提としており、県が埋立権をもって漁業組合と交渉し、漁民は補償金と引換えに漁業権を放棄していった。

市原市の場合、1957～67年にわたって五井市原地区と五井姉崎地区に合計630万坪近い土地が造成され、五井市原地区の市原地域に造船・非鉄金属・電気機械器具等の業種を中心とした重工業、五井地域と五井市原地区に石油精製・石油化学が結合した石油化学コンビナートが誘致形